

# 第3章 目標達成状況と 評価



## 第1節 | 目標達成状況の評価基準

本計画で定めた目標値の達成状況の評価するにあたり、下表のようにA～Dの4段階の評価区分を設定しました。中間評価の結果は、A「目標に達した」、B「目標値は達成していないが、改善傾向または変化がないもの」は計61項目で、全体の64.9%となっています。

評価区分		該当項目数（割合） ※D評価を除いて算出
目標値に達した	A	19項目（20.2%）
目標値は達成していないが、改善傾向または変化がないもの	B	42項目（44.7%）
悪化している	C	33項目（35.1%）
評価困難	D	6項目

分野別にみると、「65歳の健康寿命」や「健康であると意識している人の割合」は増加しています。また、「がんの予防」、「歯・口腔の健康」、「喫煙」、「飲酒」の分野は、順調に推移している項目が多くなっています。一方で、「循環器疾患・糖尿病の予防」、「栄養・食生活」、「身体活動・運動」、「休養・こころの健康」の分野では、悪化している項目が多い状況です。

分野別の目標・項目数		A	B	C	D
<b>65歳の健康寿命 健康の意識</b>	3	3	0	0	0
(1) がんの予防	12	3	9	0	0
(2) 循環器疾患・糖尿病の予防	26	5	7	9	5
(3) 歯・口腔の健康	9	5	2	2	0
(4) 栄養・食生活	13	1	3	9	0
(5) 身体活動・運動	10	0	5	5	0
(6) 休養・こころの健康	10	1	2	6	1
(7) 喫煙	11	1	9	1	0
(8) 飲酒	6	0	5	1	0
計	100	19	42	33	6

## 目標達成状況と評価

### 【健康の意識】

#### ①65歳の健康寿命

	策定時 H22年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	16.96年	17.31年	延ばす	A
女性	19.72年	20.02年	延ばす	A

#### ②健康であると意識している人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
82.5%	82.7%	増やす	A

### (1) がんの予防

#### ①各種がん検診受診率

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
肺がん検診	26.5%	34.3%	40%	B
大腸がん検診	23.7%	32.0%	40%	B
胃がん検診	20.4%	24.5%	40%	B
乳がん検診	17.3%	25.8%	50%	B
子宮がん検診	21.9%	30.7%	50%	B

#### ②各種がん検診精密検査受診率

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H26年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
肺がん検診	74.3%	78.0%	90%	B
大腸がん検診	64.5%	68.6%	90%	B
胃がん検診	75.2%	79.9%	90%	B
乳がん検診	91.4%	91.8%	* 90%	A
子宮がん検診	72.0%	79.1%	90%	B

\*乳がん検診の精密検査受診者割合においては、国の目標値をすでに超えているため90%以上を維持していきます。

### ③がんの年齢調整死亡率<sup>6</sup>（人口 10 万対）

	策定時 H22 年度 (A)	中間評価 H27 年度 (B)	目標 H34 年度 (C)	判定
全年齢 男性	165.2	152.3	下げる	A
全年齢 女性	88.8	79.7	下げる	A
(モニタリング) SMR 男性	0.96	0.96 (H28)	下げる	—
(モニタリング) SMR 女性	0.97	1.00 (H28)	下げる	—

## (2) 循環器疾患・糖尿病の予防

### ①適正体重<sup>7</sup>を維持している人の割合

	策定時 H24 年度 (A)	中間評価 H28 年度 (B)	目標 H34 年度 (C)	判定
20 歳代女性の やせの人の割合	25.2%	20.1%	15%以下	B
20～60 歳代男性の肥満者の割合				
全体	24.1%	25.0%	14%以下	C
40 歳代	22.7%	27.9%	14%以下	C
50 歳代	28.9%	32.2%	14%以下	C
60 歳代	22.5%	25.9%	14%以下	C
40～60 歳代女性の肥満者の割合				
全体	15.2%	16.4%	13%以下	C
40 歳代	16.9%	12.8%	13%以下	A
50 歳代	14.1%	14.6%	13%以下	C
60 歳代	14.8%	20.7%	13%以下	C

### ②全出生中の低出生体重児（2500g 未満）の割合

策定時 H22 年度 (A)	中間評価 H27 年度 (B)	目標 H34 年度 (C)	判定
9.6%	9.6%	減少傾向へ	B

### ③小学 4 年生の肥満度<sup>8</sup>35%以上の割合

策定時 H23 年度 (A)	中間評価 H28 年度 (B)	目標 H34 年度 (C)	判定
2.21%	1.5%	減少傾向へ	A

<sup>6</sup> 年齢調整死亡率：年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整した死亡率。

<sup>7</sup> 適正体重：身長に見合った適正な体重のことで、様々な算出方法があるが、BMI（ボディ・マス・インデックス）においては、統計的に疾病がもっとも少ない 22 を標準として、18.5 以上 25 未満を適正体重とする。BMI の求め方は p.39 BMI の欄を参照のこと。

<sup>8</sup> 肥満度：太っているか否かを表わす数値。

④定期的に健康診査を受けていない人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
全体	22.6%	18.9%	16%以下	B
(モニタリング) 国民生活基礎調査	30.4%	—	—	—
20～40歳代女性	32.8%	23.6%	20%以下	B
(モニタリング) 国民生活基礎調査	41.5%	—	—	—

⑤特定健康診査の受診率

策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
34.3%	36.5%	60%	B

⑥特定保健指導の実施率

策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
33.6%	27.4%	60%	C

⑦介護保険サービスの利用者数

策定時 H22年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
29,322人	40,600人	抑制する	C

⑧脳血管疾患・虚血性心疾患<sup>9</sup>の年齢調整死亡率（10万人当たり）

	策定時 H22年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
脳血管疾患（男性）	48.0	—	41.6	D
脳血管疾患（女性）	27.4	—	24.7	D
虚血性心疾患（男性）	54.8	—	31.8	D
虚血性心疾患（女性）	21.4	—	13.7	D

<sup>9</sup> 虚血性心疾患：心臓への酸素や栄養を供給している血管が動脈硬化等により狭くなり、酸素や栄養が不足して起こる病気で、狭心症と心筋梗塞を指す。

⑨収縮期血圧の平均値（高血圧症の状況）

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	131mmHg	130mmHg	現状維持	A
女性	128mmHg	127mmHg	現状維持	A

⑩脂質異常症<sup>10</sup>の人の割合（LDLコレステロール<sup>11</sup>160mg/dl以上の人の割合）

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	10.5%	9.1%	6.2%	B
女性	14.8%	13.1%	8.8%	B

⑪血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合  
（HbA1c<sup>12</sup>がJDS値8.0%（NGSP値8.4%）以上の人の減少）

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	1.2%	1.0%	1.0%	A

⑫糖尿病治療継続者の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	58.3%	—	70%	D
(モニタリング) 特定健康診査	41.3% (H23)	43.2% (H27)	—	—

（3）歯・口腔の健康

①3歳児歯科健康診査でむし歯のない幼児の割合

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	82.4%	86.4%	90%	B

<sup>10</sup> 脂質異常症：血液中の中性脂肪やコレステロール等の脂肪が増えている状態で、動脈硬化の原因となる。

<sup>11</sup> LDLコレステロール（低比重リポたんぱく質コレステロール）：悪玉コレステロールとされることがある。肝臓で合成されたコレステロールを全身に運ぶ役割を持っているが、増えすぎて血管に溜まると動脈硬化を促す。

<sup>12</sup> HbA1c（ヘモグロビンA1c）：ヘモグロビンの1つで、過去1～3か月間の平均血糖値を反映するため、糖尿病の管理指標として用いられる。

②3歳児で2回以上のフッ化物<sup>13</sup>塗布を受けている幼児の割合

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	52.3%	57.7% (H27)	増やす	A
(モニタリング) 中学1年生 1人平均DMF歯数	1.00本	0.59本	—	—

③中学1年生1人平均DMF歯数<sup>14</sup>

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
(モニタリング)	1.0本	0.59本	—	—

④過去1年間に歯科健康診査を受診した人の割合(20歳以上)

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
23.6%	28.0%	55%	B

⑤40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合(成人歯科健康診査CPI<sup>15</sup>3以上)

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	33.0% (H23)	36.6% (H27)	減らす	C
(モニタリング)	18.2%	19.2%	—	—

⑥40歳で喪失歯のない人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	83.1% (H23)	87.8% (H27)	増やす	A
(モニタリング)	54.1%	73.0%	—	—

<sup>13</sup> フッ化物：いわゆるフッ素といわれた元素で、地中や海水、河川水、植物、動物など、自然界に広く含まれる。フッ化物は歯のエナメル質を強くしたり、修復したりする作用があるほか、むし歯菌の酸産生を抑制する働きがある。

<sup>14</sup> DMF歯数：永久歯における未処置歯(D)、喪失歯(M)、処置歯(F)の合計の1人当たり平均値。

<sup>15</sup> CPI：地域歯周疾患指数。歯周疾患のスクリーニングで歯周ポケットの深さを測定するもの。

⑦60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合（成人歯科健康診査 CPI 3 以上）

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	48.5% (H23)	48.4% (H27)	減らす	A
(モニタリング)	16.8%	17.1%	—	—

⑧60歳で24歯以上自分の歯を有する人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	75.6 (H23)	87.2 (H27)	増やす	A
(モニタリング)	53.0%	71.9%	—	—

⑨80歳で20歯以上自分の歯を有する人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	59.2 (H23)	75.1 (H27)	増やす	A
(モニタリング)	31.9%	26.9%	—	—

⑩60歳代における咀嚼<sup>16</sup>良好者の割合（口腔機能の維持・向上）

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
	69.8%	69.6%	80%	C

（4）栄養・食生活

①朝食を食べている人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
20歳代 男性	53.7%	48.2%	75%以上	C
30歳代 男性	60.7%	48.8%	75%以上	C
20歳代 女性	66.3%	52.2%	75%以上	C

<sup>16</sup> 咀嚼（そしゃく）：口腔（こうくう）内で食物をかみ碎き、唾液（だえき）と混ぜ合わせる事。

②毎日3食野菜を食べる人の割合

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
16歳未満	29.1%	37.5% (H29)	増える	A
壮年期(40～64歳) 男性	21.7%	18.9%	30%以上	C
壮年期(40～64歳) 女性	28.2%	28.4%	30%以上	B

③主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合

策定時 H23年度 (A)	中間評価 H28年度 (16歳未満(H29)) (B)	目標 H34年度 (C)	判定
56.5%	55.3%	65%以上	C

④ほとんど毎日家族と食べる子どもの割合（学齢期6～15歳）（巻末「資料編」参照）

	策定時 H23年度 (A)	中間評価 H29年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
朝食 男性	70.7%	67.2%	増える	C
朝食 女性	79.9%	60.5%	増える	C
夕食 男性	84.7%	78.5%	増える	C
夕食 女性	87.5%	79.5%	増える	C

⑤健康づくり協力店の指定店舗数

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
12店	30店	120店	B

⑥特定給食施設<sup>17</sup>で栄養成分表示をしている割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
81.9%	84.5%	87%	B

<sup>17</sup> 特定給食施設：特定かつ多数の人に対して継続的に食事を提供する施設のうち、栄養管理が必要なものとして厚生労働省令で定める施設で、1回100食以上又は1日250食以上の食事を提供する施設（さいたま市健康増進法施行細則による）。



## (5) 身体活動・運動

### ① 1日1時間以上歩いている人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	34.0%	35.1%	44%	B
女性	29.0%	29.3%	38%	B

### ② ロコモティブシンドローム<sup>18</sup>を認知している市民の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
16.4%	36.4%	80%	B

### ③ 週1回以上のスポーツ実施率(小学5年生)

策定時 H22年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
86.8%	85.7%	93%	C

### ④ 運動習慣<sup>19</sup>のある人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	31.0%	31.9%	41%	B
女性	25.6%	24.8%	35%	C
20～64歳 男性	21.8%	24.5%	32%	B
20～64歳 女性	19.9%	18.8%	30%	C
65歳以上 男性	38.1%	31.0%	48%	C
65歳以上 女性	32.9%	31.1%	43%	C
(モニタリング) 市のスポーツ施設 をこの1年間利用 したことはない	55.4%	—	割合の 大幅な減少	—
(モニタリング) 市のスポーツ施設 の利用時の評価 で、悪いと感じた	5.1%	—	割合の減少	—

<sup>18</sup> ロコモティブシンドローム：運動器症候群。運動器（足腰の骨や関節、筋力など）の障害により要介護になるリスクの高い状態になること。

<sup>19</sup> 運動習慣：厚生労働省が実施する国民健康・栄養調査では、「30分以上の運動をおおよそ週2回以上実施し、1年以上継続している」場合を運動習慣があると定義している。

(モニタリング) 運動をしていない理由：安全にウォーキングやジョギングなどのできる歩道や公園が整備されていないから	5.3%	6.2%	—	—
(モニタリング) 運動をしていない理由：誰でも気軽に利用出来る運動施設が近くにないから	11.7%	13.1%	—	—

## (6) 休養・こころの健康

### ①睡眠により休養を十分とれない人の割合

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
全体	23.9%	27.1%	18%以下	C
10～40歳代 男性	31.6%	36.6%	28%以下	C
10～40歳代 女性	32.7%	32.9%	28%以下	C

### ②睡眠の確保のためにアルコールを使用する人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
25.4%	24.9%	15%以下	B

### ③ストレスが解消できていない人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
30.8%	29.3%	25%以下	B

### ④身近に相談相手のいない人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
14.1%	14.4%	10%以下	C

### ⑤生きがいを持っている人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
66.6%	63.2%	85%以上	C

⑥何らかの地域活動をしている高齢者の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
48.5%	—	増やす	D

⑦居住地でお互いに助け合っていると思う市民の割合（地域のつながりの強化）

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
42.3%	39.8%	60%	C

⑧自殺者数（人口10万対）

策定時 H23年度 (A)	中間評価 H27年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
21.7人	16.4人	減らす	A

（7）喫煙

①COPD<sup>20</sup>を知っている人の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
41.7%	44.7%	80%	B

②受動喫煙<sup>21</sup>の機会を有する人の割合（巻末「資料編」参照）

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
行政機関	2.3%	1.5%	0%	B
医療機関	1.2%	1.4%	0%	C
職場	20.5%	18.7%	受動喫煙のない 職場の実現	B
家庭	17.6%	13.9%	3%	B
飲食店	36.8%	34.6%	15%	B
学校	2.7%	2.0%	小・中・高は0% それ以外は受動 喫煙のない環境	B
遊技場	11.5%	9.6%	減らす	A

<sup>20</sup> COPD：慢性閉塞性肺疾患。慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれてきた病気の総称。たばこの煙を主とする有害物質を長期に吸入曝露することで生じる肺の炎症性疾患。

<sup>21</sup> 受動喫煙：非喫煙者が自分の意思と無関係に他の人のたばこの煙を吸ってしまうこと。間接喫煙ともいう。

③成人の喫煙率（喫煙をやめたい人がやめる）

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
男性	24.8%	23.2%	18%	B
女性	9.3%	5.9%	5%	B

④未成年者の喫煙率

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
1.5%	1.0%	なくす	B

(8) 飲酒

①生活習慣病のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合

(1日当たりの純アルコール摂取量：男性 60g 女性 20g)

	策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
成人男性(60g以上)	4.9%	6.3%	2.8%以下	C
成人女性(20g以上)	19.7%	18.7%	6.4%以下	B
40歳代男性 (60g以上)	8.8%	7.9%	4.6%以下	B
50歳代男性 (60g以上)	10.0%	7.8%	5.8%以下	B
20~30歳代女性 (60g以上)	4.6%	2.2%	0.2%以下	B

②未成年者の飲酒の割合

策定時 H24年度 (A)	中間評価 H28年度 (B)	目標 H34年度 (C)	判定
12.3%	8.0%	なくす	B